

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧
告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 多摩市立北諏訪小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒 215-0007
東京都多摩市諏訪 1-60-1

E-mail : sumita-katsushi@city.tama.tokyo.jp

Website : http://www.tama.ed.jp/n-suwa/index.htm

児童生徒数：男子 名 女子 名 合計 505 名
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

●『地域の農家の方との連携』3年生

3年生は、「地形」、「交通」、「公共施設」、「産業」、「土地利用」、「文化」、「人々の暮らしや動き」など、いくつもの視点から自分たちの住む地域について、『地域探検』を通して学習しています。探検をする度に、子供たちの事象を見る目は新しい気づきで輝きを増していきます。昨日まで、何気なく見ていた様々な風景や人々が児童の中で、意味をもって有機的につながり、そして、地域への愛着も一層、深まっています。

地域の農業に長く携わる農家の方からのお話も、児童たちにいくつもの驚きと気づきを与えてくれました。土作りの苦勞と工夫、季節と共に姿を変える畑、作物に込められた思い、昔の諏訪・馬引沢地域の様子や子供たちの遊びなど、分かりやすく、興味深く話していただきました。

発表に向けて、分かったこと、気付いたことを整理して原稿用紙にまとめ、参観日などに合わせて発表しました。プレゼン能力育成の初歩となる貴重な経験としても位置づけています。

児童の感想からは、いつも参加している楽しい『夏祭り』が、地域の人々の思いや願いと深く関係していることに気付いたという表現も見られました。これからは、自分も地域の一員として主体的に関わろうという意識の芽生えが感じられました。

これも、ニュータウンと古くからの地元の方とが共存している本校の学区域ならではの貴重な学習スタイルと言えるでしょう。

●『北諏訪小生き生きプロジェクト』4年生～5年生

4年生の社会科『ごみをへらそう』の学習は、自分や家族の生活から生ずる『ごみ』の行方と環境への影響について学習します。あくまでも、当事者の立場として考えさせる大切な単元です。4年生ともなると、知識としていろんなことを知っていますから、その範囲の中で『分かったつもり』になることもあり得るところです。そこで、地域で環境保全のための取り組みをされている NPO 法人の方をゲストティーチャーにお招きし、『ごみ』をより具体的に子供たちに意識させる、様々な資料やお話を示していただきました。その中で特に児童へのインパクトが強かったのは、ごみの最終処分場を造るために、そこに棲む多くの野生動物が生活の場を追われているという事実でした。知らなければ、そのまま何事もなく過ぎてしまうであろう事実を『より多くの人にも知ってもらいたい。』とまで考えるようになった子供たちの切なる思いが、主体的で実践的な学びを生み出しました。

社会科から、新たな課題を設定し、『総合的な学習の時間』として、『自分たちにできることを考え、実践しよう。』と調べ活動に取り組み、3年生への紹介発表という形でねらいを達成しました。また、『自分たちにもできること』の実践例として、『環境に優しい、循環型の生活』について学び、月に一度、家庭から生ゴミを持ち寄り（いきいきデー）、堆肥づくりをしようという取り組みも行いました。こうしてできた堆肥を使って有機野菜を育て、5年生になったら家庭科の調理実習でおいしく食べようと意気込んでいます。

『ごみ』の問題から始まって、児童の意識は環境を大切にしながら生活していくこと全般に向かいました。その一つの現れが『ゴーヤカーテン』の取り組みです。この取り組み自身は、多摩市全市のものですが、児童の意識の中では、『ごみ』の問題意識と深くつながっています。また、『多摩市循環型エネルギー協議会』の皆様の協力を得ながら、自然エネルギーの活用について実践的に学ぶことができました。太陽光を使った『エコ・クッキング』がその代表例です。

●各学年の栽培活動（畑、花壇、教室）1～6年

- 1年 アサガオ、ヒマワリ、サツマイモ、サフィニア
- 2年 トマト、ミニトマト
- 3年 ホウセンカ、ヒマワリ、オクラ、ダイズ、マリーゴールド
- 4年 ゴーヤ、ヘチマ
- 5年 インゲンマメ、アサガオ
- 6年 ジャガイモ

※このほか、5,6年生の教室では、簡易バイオマス水槽でのレタスの水耕栽培を行いました。メダカの排泄物をレタス栽培の肥料として利用し、水が浄化され、水槽に戻される仕組みです。

●北諏訪小田んぼ 5年

校庭の一角にある、およそ40㎡の北諏訪田んぼを使っての5年生の取り組みです。社会科の農業（稲作）についての学習と並行して行います。『田おこし』、『代かき』から自分たちで取り組むことで、たいへんさを実感することができます。『田植え』は、地域の農家の方から直接手ほどきを受け、慣れない手つきながら6月の初旬に実施しました。心を込めて育てることで、日照時間や降水量などを気にする児童もいました。一粒の米が実るまでに農家のたいへんな苦労や思いがあるのだということに気付くことができました。

収穫後は、『究極のおにぎり』をつくり、おいしそうにほおぼっていました。残った稲わらは、これまた地元の農家の皆さんに実演していただき、縄をなったり、わらじづくりに挑戦したりしました。

●多摩太鼓 6年

地域に伝わる伝統文化に接する機会として、『多摩太鼓愛好会』の皆さんを招き、6年生の児童が和太鼓に挑戦します。11月の下旬から、毎週木曜日の午後、『多摩太鼓』の時間として、汗にまみれて練習に励みました。はじめは、へっぴり腰だったのが、次第に様になっていき、3月の卒業披露の時には、見ているものに感動を与えるほどに上達しました。下級生は、あこがれのまなざしを6年生に向けていました。

●昔遊び 1,2年生

地域の二つの老人会からお年寄りをお招きし、低学年児童に昔の遊びを教えてくださいました。べいごま、めんこ、竹とんぼ、あやとり、などその見事な手さばきに子供たちは驚きの声を挙げていました。昔に比べると、刃物や道具を使う場面も少ない今の子供たちには、かなり難しい部分もあり、手先の器用さの発達など今の遊びの課題について考えさせられました。

